

飢餓対策ニュース

わたしから始める、世界が変わる



応援ください! 南スーダン緊急食料支援継続中

「和解と平和」というもう一つの実

日本国際飢餓対策機構 常務理事 清家弘久

「昨日まで自分の無力さを感じて、毒を飲んで死んでしまおうと考えていました。しかし、今は違います。私には希望が見つかりました」

これは2013年5月号の「飢餓対策ニュース」巻頭言の最初の言葉で、アフリカ・コンゴ民主共和国のルブンバシで出会った1人の国内避難民パメラさんが地元の教会で語った言葉です。

パメラさんたちが元々住んでいた村を、対立していた部族が急襲して40名以上の仲間やその家族が殺されました。130名ほどの村人が自分の村を捨てて逃げ、遠く離れた町に住み着きました。当然、地元住民とは水や食料の問題でトラブルが起きていました。しかし地元の教会が手を差し伸べて支援が始まります。パメラさんは参加したセミナーで一つの決断をします。それは離れ離れになっていた自分の家族を探し、新しい村作りをすることでした。一緒に逃げてきた仲間たちは反対をしましたが、彼の決断は固く、奪われた村の近くまで行き、そこで草むらに隠れるように生活していた自分の家族と村の子どもたちを見つけました。

それから彼は元の自分たちの村から10kmほど離れたプエトという町の郊外に土地を借り、新たな村作りを始めました。

そしてわずか3年で驚くほどの変化が起こりました。今日食べる物もこと欠いていた人々が、自分たちで食べられるようになっただけでなく、周りの人々を励まして村作りを進めているのです。一番大きな変化は、周りの二つの村が彼らの村づくりの手法に共感して協力関係が始まり、50人以上いる子どもたちが学校に行けるようになったことです。

これからもどんな大きな実を結んでいくのか本当に楽しみであると同時に、その先に残された問題を思います。それは、自分たちの家族のいのちと土地を奪っていった略奪者たちとの『償いと赦し』という大きな大きな問題です。かつてルワンダで起こった大量殺戮後、10数年かかって2度と大きな過ちが起きないように「罪の告白と赦し」が行われてきました。そのことがコンゴのプエトでどう行われていくかです。言葉では簡単ですが、それは途方もないエネルギーを要することです。

パメラさんは毎週金曜日にプエトの路傍に立って、民衆に語りかけ続けているそうです。「私は生まれ変わった」と。やがてこの人々の間に真の和解と平和がもたらされるように祈っています。

「あなたは正義の種を蒔き、誠実の実を刈り入れよ」(聖書)

ケニア遊牧民の子どもを預かる アンブロ村学校寮の付帯設備を応援

～コミュニティ変革委員会～ 貧困解消のため、まず子どもの就学率向上を



JIFHのアフリカのパートナー団体の一つである国際飢餓対策機構（FH）ケニアは、ケニア北部マルサビットカウンティの村々で活動しています。その中の一つアンブロ村は、遊牧民が家畜に水を飲ませるために集まってくる牧草地でしたが、次第に人が定住するようになり、今では240世帯1,500人の人々が暮らしています。

アンブロ村から5kmのところ、12年前にケニア政府が掘った井戸から引いてきた給水所があります。この村の東側はソマリアとの国境に接しているため、時折ソマリア人の遊牧民が水を求めて家畜をつれてやって来ます。このことから2つの村の間で交易も始まり、今では保健施設や小学校もでき、126人の生徒が勉強しています。

遊牧民の子どもたちの課題

しかしアンブロ村の住民は家畜の飼育で生計を立てていますので、ほとんどの人が3月から10月までの乾季には、家畜を連れて牧草地を求める旅に出ます。その際子どもだけをうちに残していく訳にはいかず、やむなく連れて行く人たちも多くなります。アンブロ村から60kmほど離れた2つの村には3年生までの寺子屋施設がありません。どちらの境遇の子どもたちも学校には通い続けることができず、中途退学してしまっ

ていました。そこで、村のコミュニティ変革委員会とFHケニアの現場スタッフが話し合い、学校寮の建設を村の最優先課題にすることを決めました。

FHケニアはアンブロ村があるソロロ地区全域で、最も危機的な状況にある子ども・女性・高齢者が極貧の状態から抜け出すことを目標にして活動しています。貧困から抜け出すためには、5～17歳の子どもたちが就学し継続して学校に行く必要があります。アンブロ村の小学校に学校寮ができれば、この目標に大きく近づくことになります。

支援でフェンスやトイレを設置

ケニアで小学校の寮を建てるには、5つの条件があります。重要度の高い順に、①トイレやフェンスなど設備の整った宿泊施設 ②キッチン ③食堂 ④照明 ⑤水源 となっています。FHケニアは、コミュニティ変革委員会と話し合いを重ね、地域の子どもたちを支援している米国の資金を基に学校寮の建設に着手しました。最重要項目の一つであるトイレとフェンスの整備は、JIFHを通して日本のハンガーゼロサポーターの皆さんからご支援を頂きました。宿泊施設とフェンスはほぼ完成しています。しかし公衆衛生局がトイレとして認可した場所の地盤がとても固いことがわかりました。



完成したフェンス、奥に学校が見える



掘削中に固い岩盤（写真①）が見つかったトイレの工事現場。子どもたちが落ちないように安全に配慮しながら工事が進められています。

そこで敷地内に別の場所を探して認可の取りなおしをし、4月末に認可が下りて、ようやくトイレ建設が始まりました。まもなくこの学校寮に子どもたちの笑い声が響くことでしょう。皆様のご協力を感謝します。

ハンガーゼロサポーターのお申し込みは、最終面もしくはウェブサイトからできます。

国際飢餓対策機構 世界代表者会議

報告：特命大使
近藤 高史



マレーシアに集結した各国の代表者たち

出会い、再会、分かち合い

2017年5月1日から5日間、マレーシアの首都クアラルンプールにて、世界25カ国から集まった国際飢餓対策機構 (Food for the Hungry) のリーダーたち160名によるCLC (Corporate Leadership Conference: 世界代表者会議) が開かれ、日本 (JIFH) からは2名が参加しました。

前回開催 (2010年ドミニカ) からすでに7年が経過し、久しぶりに開かれたCLCでしたが、参加者からは一様に「国際飢餓対策機構の本部 (米国アリゾナ州) と各国フィールドの最新情報が共有できた」「食事の時間などの交流で互いの顔と名前を覚え、将来に向けてのよいネットワーキングができた」という声が聞かれました。

私たちの使命を確認

大会冒頭ゲーリー・エドモンズ会長より、改めて国際飢餓対策機構の歴史、理念、そして現況と課題が語られ、今一度、私たちに与えられている使命について考えさせられました。



基調講演中のエドモンズ会長

国際飢餓対策機構の使命

理念	世界から物心両面の飢餓をなくすため、キリストの精神に基づき、人々と社会に仕えます。
働き	私たちは関わるすべての人々との関係において、和解と一致が促進されるように働きます。
約束	捧げられた尊い募金を賢く用いて、最大限の結果を得るために、努力を惜しみません。
愛の奉仕	目の前の方が誰であれ、その命を尊重し、愛をもって接します。
真・善・美の追求	多くの課題を抱える社会にあって、真実なるもの、善なるもの、美なるものを常に追い求めてゆきます。



人は一人一人死んでいく。
それなら私たちも一人ずつ
助けてあげばいいではないか。
創設者 ラリー・ワード博士

新たな活動の始まり

これまで活動拠点がなかったインドで、現地NGO団体との協力で「子ども支援を中心とした地域開発」プログラムの提供が進行中との紹介があり、私たちJIFHとしても協力できる可能性がないか早速話し合いを持ちました。

またJIFHが現在協力関係にある国々 (ウガンダ、ルワンダ、ケニア、南スーダン、フィリピン、カンボジア、バングラデシュ、ボリビア等) や、これから関係を深めていきたい国々 (エチオピア、インドネシア) とも、情報交換と交流を持ちました。

VOC (善い隣人として共に生きる社会) 実現

JIFHとして今後VOC活動を海外で進め、国内でもアピールしていくにあたり「子ども支援を中心とした地域開発」を積極的に進めている世界各地の事例を知ることができ、とても励まされると同時に、この「世界大」の働きが前進するよう、国際飢餓対策機構の仲間たち、そして支援者の皆様と共に歩んで行きたいと強く思われました。



※VOC=Vision of Community



子どもたちを 学校に行かせたい

マイ地区の人々に寄り添い励ます ハンズ・オブ・ラブ・フィリピンのアプローチ

H O L P F I

HOLPFI報告
酒井保&慶子
フィリピン駐在員

＝これまでの経緯＝

2013年、パートナーであるマンヤン福音教会連合MTCA（ミンドロ島にある原住民マンヤンの福音教会の集まり）のリーダーと連絡をとりながら、新たな支援地の調査をしました。5つあった候補地を10日間かけて回り、その中から東ミンドロ州ピナマラン県サバン村マイ地区を選びました。

この地区の人々は基本的に自給自足の生活で、農地からの収穫物とバナナ、ランブータン等の果物を売ることによって必要な現金収入を得ています。山の中でひっそりと暮らしていたのですが、近年タガログの人たちが山奥まで開発の手を伸ばすようになり、その急激な環境の変化に戸惑い、このままでは今までのように生活

していけないという危機感を持っています。村には教育を受けた人たちが何人かいたことで、この変化に対応していくには子どもたちに教育の機会を得させるしかないと考え、彼らなりのチャレンジを始めていました。

マイ地区から最寄りの小学校まで徒歩で山道を3時間、水位の変化が激しい川沿いを歩かなければならないので、子どもたちが通学するのは現実的ではありません。成人の識字率は思いのほか高かったのですが、子どもたちのほとんどは教育を受ける機会がありませんでした。子どもには、原住民向けの識字教育を最寄りの村からボランティアの方が不定期に来て行なっているだけでした。

「子どもたちに教育の機会を与えたい！」HOLPFIの



お父さんと子どもたち



お母さんたち



HOLPFIスタッフのエバさんは
今年の世界食料デーで来日予定

フィリピン人スタッフが村を訪れたときにコミュニティのリーダーから聞いた言葉です。村では以前、学校の近くに寄宿舎を自分たちで建ててそこから子どもを通わせたり、親戚や理解のあるタガログの人に子どもを預かってもらって学校に通わせたりしました。しかし長続きせず行き詰まっていた。そのことを知っていたMTCAのリーダーが私たちに紹介をしたことで彼らとの交流が始まりました。2013/14年はこのマイ村をフィリピン人スタッフが不定期に訪問して村人と交流をはかり、私たちの団体について知ってもらう努力を続けました。2015年9月、日本人も来て良いというので私も初めて訪問することができました。



ました。1日で達成予定のプロジェクトでしたが、来なかった人たちもいて村の半分しかきれいになりませんでした。後日残りの半分を行なったのですが、日数がたった結果、前回掃除したところはまた汚れていて、お母さん方からがっかりした声が漏れていました。

＝マイ地区の現状＝

マイ地区は35世帯150人ほどの村で、半数は12歳以下の子どもです。訪問した時4人のお母さんが1歳までの子どもを昨年亡くしたと聞きました。昼間は両親とも畑仕事に出ており、年長の子どもが赤ん坊の面倒をみていました。

政府の記録や訪問の調査で村の概要は知ることができましたが、村の人たちに自らの村の現状を知ってほしいと願い、PRA（参加型農村調査法）を用いて村の地図を作成してもらいました。その後リーダーたちからの要望で、リーダーシップトレーニングを行いました。SALTY（ソルティ、NL4月No.321号巻頭言参

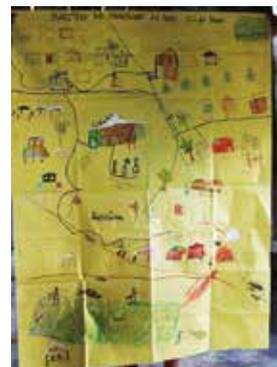


マイ地区にある資産を書き出す作業

照）LIGHTS（ライツ：NL5月No.322号巻頭言参照）を行い、リーダーがまず変わっていかねば地域の変革は起きないことを学んでもらいました。そして、村人一人一人が役割を担って進めていくことの大切さ、出来ることから始めて行くことの必要性を学んでもらいました。また自分たちが目指す将来像（ビジョン）を作ってもらい、まず何から始めていくかということでお母さん方の声が反映され、掃除プロジェクトが実施され

気づきから意識改革へ

このプロジェクトは継続されず、その理由を知るためにモニタリングを実施しました。村のリーダーから出た言葉は「掃除をしないのは私たちの文化だから」。自給自足の生活をしてきた彼らは、掃除などしなくても出たゴミはある程度時間がたてば自然に分解されますし、残飯などは鶏や豚の餌となります。現在村を汚しているのは家畜が食べない生ごみとプラスチックゴミです。お母さん方はそのことに問題意識を持っていたわけですが、リーダーはそうではありませんでした。必要性が腑に落ちていなければ、継続は期待できません。



みんなで描いたコミュニティの未来図

その後の計画の中には掃除は入っていませんでした。子どもを学校に行かせるために始めた寄宿舎も、地域をきれいにするにも続かなかった根本原因について、村人一人一人が気付いてはいないのです。

まずはリーダーが問題意識をもち、その原因がどこにあるか理解してもらうのが私たちの役割です。学校が始まれば人々は新しい出来事に向かい合っていかなければならないでしょう。その変化に対応できるように今後も働きかけていきたいと願っています。

マイ地区の人々の地域変革を応援してください

支援は郵便振替00170-9-68590日本国際飢餓対策機構
記入欄に「ハンズ・オブ・ラブ・フィリピン」と明記ください。
また、ウェブサイトから海外スタッフサポーターに申し込んで
酒井保・慶子駐在員を継続支援することもできます。

世界を変えるための17の目標とは？



持続可能な開発目標(SDGs)



2015年までに達成することを目指して、国際社会が掲げてきた目標、それがミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals: MDGs) です。2000年9月の国連ミレニアム・サミットや1990年代に開催された主要な国際会議やサミットで採択された国際開発目標を統合したものでした。

このMDGsの第1に掲げられたのが「極度の貧困と飢餓の撲滅」で、極度の貧困と飢餓に苦しむ人口の割合を1990年と比べて半減させるというものでした。結果として中国やインドの急速な経済発展による影響で、極度の貧困に苦しむ人は世界人口の約36% (約19億人) から2015年には約12% (約8.4億人) まで減少しました。目標を達成したことになりましたがサハラ砂漠以南のアフリカ地域では、人口の

41%が依然として極度の貧困状態にあるということをお忘れではありません。

飢餓については、この15年間で開発途上地域における栄養不足人口の割合は23.3%から12.9%に減少しました。しかしサハラ砂漠以南のアフリカでは4人に1人が、今も栄養不足に陥っています。

「持続可能な開発のための2030アジェンダ」は、2015年9月の国連サミットで採択され、このミレニアム開発目標 (MDGs) を引きついでいます。この中には17の目標が掲げられていて、今後15年間、"誰も置き去りにしない"ことを確保しながら、貧困、飢餓、不平等に終止符を打ち、気候変動と環境に関する対策を講じるなどの取り組みを進めることとなります。



JIFHは1981年以来、開発途上国の人々が飢餓・貧困から解放されて自らの力で立ち上がり、希望を持って生きることができるよう、共に歩んできました。皆さまのご支援とパートナー団体の協力によって、一日も早くこれらの持続可能な開発目標が達成されるよう願っています。「わたしから始める、世界が変わる」

使用済みハブラシを集めて募金協力

～生徒会でテラサイクルの回収プログラムに参加～

玉川聖学院(東京都)と亀崎小学校(広島市)の生徒のみなさんが、リサイクル事業をおこなうテラサイクルジャパンの「ハブラシ回収プログラム」を通じて当機構に募金協力をしてくださいました。

ハブラシ回収プログラムは、米
国に本社があるテラサイクルの日本法人が、2015年から国内で始めたリサイクル事業です。しくみの流れは ①一般消費者や各種団体、企業など(回収協力者)が使用済みハブラシを回収して同社に送る ②集まった品を同社が原料や新たな製品にリサイクル ③回収協力者は、回収量に応じてテラサイクルからポイントを付与され、貯まったポイントを寄付金に変換(ハブラシ1本2円)して学校やNGOに送ったり、リサイクル品(植物プランター等)に交換することができる、というものです。

楽しく参加できる工夫も

この回収プログラムに参加した玉川聖学院では、昨年冬休み前に生徒会から全校生徒に使用済みハブラシの回収を呼びかけ、冬休み明けに集まったハブラシ約3kg(294本)を当機構に届けてくださいました。呼びかけを実施するにあたっては、ハーブ君とラッシー君というオリジナルキャラクターを描いたポスターや回収箱を作成するなどして、楽しみながら



オリジナルの回収箱を手に玉川聖学院の生徒さん

このプログラムに参加できるように工夫されていました。こうした取り組みはテラサイクルを通じてスポンサー企業であるライオン株式会社にも報告され、喜ばれることにもなりました。

また広島市立亀崎小学校では、6年生が全校生徒に回収を呼びかけ約4kg(400本)の使用済みハブラシを当機構に届けていただきました。

こうした学校の生徒さんの協力なども含めて、当機構はこの回収プログラムを通じて、テラサイクルから15万7千円の募金を受け取ることができました。今回、両校をはじめ多数の皆様がプログラム参加を通じて募金に協力を頂きましたことを心から感謝いたします。

誰でも始められます

なお回収プログラムは、テラサイクルに登録すれば、個人・法人にかかわらず誰でも参加可能です。但し、引き受けられるハブラシは



亀崎小でハブラシを受け取る

2kg(約200本分)以上となっております。家族や地域コミュニティに呼びかけるなどして、少しでも多く回収する工夫が必要です。

テラサイクルのホームページから

【回収できるハブラシ】

- 家庭で使われている市販のハブラシ。使い捨てのハブラシは対象外。
- 掃除に使用したハブラシは可能。

【回収できないハブラシ】

- 電動ハブラシ本体及び付け替えブラシ
- 天然毛(豚毛・軟毛などのハブラシ)
- 歯間ブラシ、歯磨き粉のチューブ

これから
始めたい

ハブラシ回収プログラムの詳しい情報は、テラサイクルの公式サイト www.terracycle.co.jp までアクセス。現在、学校を対象にした楽しい回収ボックスの「イラストコンテスト」の募集も行われています。



日本国際飢餓対策機構(Japan International Food for the Hungry: 略して JIFH)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、人財育成、海外スタッフ派遣、飢餓啓発などに活動を広げてきました。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、20カ国60のパートナー団体と協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころからだの飢餓」に応える活動をしています。

2017WFDチラン見本

豪華な刺繍のハンドパース

バングラデシュの貧しい女性を支える
ノクシ・カタ製品

表裏で異なったデザインが施された小物入れ。預金通帳より一回り大きいサイズ(18cm×13cm)



①あお ②きなり ③くろ (写真参照)
ご希望の色番号をご指定ください。
1つ 1,500円+日本全国送料 200円(4つまで送料同額) 1,700円でお届け!
5つ以上の送料はエリアに応じて加算。
お届けは国内に限らせていただきます。

【問合せ】キングダムビジネス
〒540-0026 大阪市中央区内本町1-4-12NPOビル402
TEL:06-6755-4877 FAX:06-6755-4888
メール: customer@kbwin-win.org
Web: キングダムビジネスで検索

2017夏 ハンガーゼロ・ファシリテーター トレーニング(沖縄で開催!!)

「いつか海外で働きたい」「なぜ貧しい国があるの」「興味はあるけど開発途上国で活動、となるとちょっと心配…」という方にもおすすめです。飢餓や貧困、国内外で多発する災害対策について講義とグループワークで学ぶことができます。お問い合わせ、お申込みは下記まで。

JIFH親善大使Manamiさんとの交流会もあります。まなもく締切、ぜひご参加ください!

- 【日時】 2017年8月15日(火)~19日(土)
- 【会場】 糸満青少年の家
〒901-0313 沖縄県糸満市賀数347
- 【費用】 30,000円(交通費は参加者負担)
- 【締切】 7月21日(金)
- 【定員】 15名(定員になり次第、締め切り)
- ★お問合わせは東京Tel:03-3518-0781まで

2017世界食料デー NEWS 今年のテーマが決定!!

わたしから始める、世界が変わる

考えてみよう

共に生きること

私たち一人一人が飢餓と貧困と闘う人々と「共に生きるということ」をいま一度考え、手を差し伸べていきましょう。全国各地の世界食料デー大会や関連催事、1食分募金にご参加ください。今年、活動報告者としてハンズ・オブ・ラブ・フィリピンから初めて現地スタッフのエバ・パノピオさんが来日します。

世界食料デー わたしから始める、 世界が変わる



ハンガーゼロ サポーターを 大募集中!!

現在までに
4346口

今すぐ▶▶▶ 各種支援の お申し込み ができます!!

●まず右の必要事項に記入して、点線の枠部分を切り取りハガキに貼って、下記の大阪事務所宛に郵送、又はこの頁をコピーして、ファクシミリで申し込みください。確認のための必要書類等を送らせていただきます。
お電話でも申し込みできます。各事務所までおかけ下さい。

- 南スーダン緊急食料支援に協力します。一時募金として()円
- ハンガーゼロサポーターとして協力します。毎月()口 (1口1,000円)
- チャイルドサポーター(子ども1人4,000円)になりたいので説明書(申込書)を送ってください。
- 海外スタッフサポーターとして協力します。毎月()口 (1口1,000円)
- JIFHサポーターとして協力します。毎月()口 (1口500円)
- 郵便自動引落し申込書を送って下さい。
- その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。

フリガナ 氏名: _____ 男・女

〒 _____

フリガナ 住所: _____

.....

(電話) _____

▼申込日: _____年 月 日▼NL 324号

FAX・072-920-2155

★「南スーダン緊急食料支援」郵便振替の際は通信欄に「南スーダン緊急」と明記ください

- 発行者 岩橋竜介
- 発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構
- Webサイトアドレス <http://www.jifh.org/>
eメールアドレス general@jifh.org
フェイスブック <https://www.facebook.com/hungerzero>
- 募金方法 ※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト
●郵便振替 00170-9-68590 / 日本国際飢餓対策機構
●他の金融機関からの自動振替 ●クレジットカード、デジタルコンビニ



- 大阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1
(広島) TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155
- 東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 00Cビル517号室
(東北) TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782
- 愛知 〒460-0012 名古屋市中区千代田2-19-16 千代田ビル3F
TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132
- 沖縄 〒900-0033 那覇市久米2-25-8 メゾン久米 202号
TEL (098)943-9215 FAX (098)943-9216
- U S A Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa
8010 Phaeton Dr. Oakland, CA94605
TEL (510)568-4939 FAX (510)293-0940

毎月、飢餓対策ニュースを皆様にお届けするために、ひばり障害者作業所(八尾市)、生活愛、関西地区のボランティアの皆様が発送作業の協力をして下さっています。

★Tポイントを利用して「南スーダン小学校給食支援」ができます。現在までに417958ポイント(円)のご協力(4037件)がありました。募金はTポイント募金で検索